

テーマセッション 1 篤実都市の生と志

災厄の後、住まうことの希望は再生可能か

スラムは、居住の権利がはく奪された状態ですが、今や世界の都市に共通する課題です。東日本大震災では、そうした権利の剥奪が自然災害によって引き起こされました。本セッションでは、住まうことの希望はどのように再生出来るのか、スラム問題などと比較しながら幅広く議論します。

日程	9月26日(月) 午前11時30分-午後1時30分
会場	東京国際フォーラム ホールA
コーディネーター	小野田泰明

テーマセッション 2 明日の情報都市

「2011年以後」の都市はどうなるか

東日本大震災は高齢化問題やエネルギー問題など、日本の都市がもともと抱えてきた難問をあぶり出してしまいました。これからの日本の都市や国土は、どのような方向へ進めばよいのでしょうか。ここでは、政治学や空間経済学、都市計画学の新たな動向をみながら、今後の都市の行方を議論していきます。

日程	9月26日(月) 午後4時30分-午後6時30分
会場	東京国際フォーラム ホールA
コーディネーター	藤村龍至

テーマセッション 3 環境をめざして

これからの環境建築を考える

地球規模の環境を考えるにあたって、まず我々にとって身近な、建築における環境から議論を始めます。異なる気候・風土を背景とした、様々な視点・分野からの環境配慮の取り組みを通じて、これからの建築の可能性を考えていきます。

日程	9月27日(火) 午前9時-午前11時
会場	東京国際フォーラム ホールA
コーディネーター	小泉雅生

テーマセッション 4 技術としての建築

自然と共存しうる技術とは何か

私たちの生活基盤の脆弱性を露わにした東日本大震災は、私たちが頼ってきた技術そのものへの信頼をもゆるがしています。建築家、都市計画家、エンジニアやデザイナーはどのように今後の技術を考え、都市化する社会を築いていくのか、多分野のパネリストからの視点を通した議論を行います。

日程	9月27日(火) 午前11時30分-午後1時30分
会場	東京国際フォーラム ホールA
コーディネーター	太田浩史

テーマセッション 5 錯乱の建築家責任

ネットワーク時代の建築家像と建築家の職能

IT 技術の進歩に伴う社会の急速なネットワーク化に伴い、社会におけるコミュニケーションの形も大きな変化の最中にあります。こうした変化に伴い 20 世紀以降、建築家が社会に対して果たしてきた役割にも大きな変化が訪れているのではないのでしょうか。今回の東日本大震災を目の当たりにし、21 世紀の建築家が社会に果たすべき役割について議論します。

日程	9月27日(火) 午後2時30分-午後4時30分
会場	東京国際フォーラム ホールA
コーディネーター	槻橋修